

L11c 東北大学ハレアカラ観測所 (ハワイ) における木星と火星の撮像観測

浅田正 (九州国際大学), 坂野井健, 鍵谷将人 (東北大学惑星プラズマ大気研究センター)

ハワイ・マウイ島ハレアカラ山頂にある東北大学惑星プラズマ大気研究センターの 60cm 反射望遠鏡を、日本から遠隔操作して木星と火星の撮像観測を行った。

木星に関しては、2015 年 12 月から 2016 年 5 月までの 5 箇月、100 分間隔で 1 日 3 回、RGB と赤外線連続光、メタンバンドの 5 種類のフィルターで撮像を行った。火星については、2016 年 3 月末から 6 月末までの 3 箇月、RGB で撮像を行った。

12 月と 5 月は晴天率がやや低かったものの、全体では 141 夜中 112 夜が晴天 (79.4%) であった。

高い晴天率と比較的落ち着いた気流により、木星や火星の雲の短時間の時間変化を追跡することが可能となった。木星に関しては、2 月 23 日から 3 月 1 日までの 7 日間に 4 画像をほぼ同じ経度で撮影することができ、その間の NNTB や NEB 北縁、SEB 南縁や SSTB の白斑の時間変化が明瞭になった。また火星のオリンポス山の風下の雲が 3 月 30 日には 2 つに分裂していたものが、4 月 2 日には西側の部分が淡くなっていることが捉えられた。